

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	子ども発達センター 若葉園 子ども発達センター かすが園
------	---------------------------------

公表日 令和7年 3月 19日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	37	2	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの部屋の利用人数が増えてきた時は他の部屋へ移動するなどしている。 ・活動のスペースと食事のスペースの空間を分けて活動を行うことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・狭いと感じることがある。 ・収納スペースや棚を充実すべき ・食事スペースが狭い。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	34	5	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に支援が必要な児の対応に、日々話し合いを重ねながら担当をつけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな乱れがなければ問題ないが、泣き声で気持ちが乱れてしまい、一緒の部屋にいられない場合など、配置を増やせると良い ・児童の特性によってはマンツーマンで付き添うことが必要 ・子どもが崩れた時等、児の人数に対しての職員配置では、難しい時がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	39	0	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんがクラスが変更になっても、構造化されていることで環境による変化の混乱が少ない。 ・お部屋に写真が貼ってあったり、子どもに絵カードを見せる等の配慮をしている。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	39	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、窓やロッカー等の掃除を行うとともに、施設全体をこまめに拭き掃除を行っている。 ・保育後清掃作業し生活空間は清潔に保たれている。 	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	36	3	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の部屋までは難しいが安心できるスペース、場所がある環境づくりは行っている。 ・クールダウン時や、課題の時間等はパーテーションを利用する等工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の角をパーテーションで区切ったり、園内を散歩したりして、子どもが落ち着くよう支援することがあるが、個別の部屋はあった方が良いと感じる。

業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	39	0		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	39	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	38	1	・もっと自由に意見を言い合える場があると良いと思う。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	39	0	・今後実施予定	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	39	0	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の講師を招いて研修会を園内で実施し、職員の質の向上を図っている。 ・障がいの理解が深まるような研修を園内で行っていて、全職員が受けられるようになっている点が良い。 ・年に5～6回、園内研修がある。また、各自でも外部の研修に出向いている人もいる。 ・園内研修があり度々受講する機会が確保されている。 	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	35	4		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	39	0	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職とも連携を図り、支援計画を作成している。 ・個別指導計画を前期と後期で作成し保護者と面談している。 	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	39	0	・子どもに関わる多職種の方々が会議で集まり、意見を聞かせてもらう機会を設けている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	39	0		

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	38	1		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	38	1		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	37	2		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	39	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、活動予定を作成し、お子さんの様子に合わせて活動を工夫している。 ・活動に偏りが出ないように、また登園してくる子に合わせて活動を考えている。 ・保育士がリーダーを一週間毎に交代し固定化しないよう、活動している。 	・活動内容を工夫しているが、固定の方が良い児もいる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	39	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	39	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、打ち合わせの時間を設けて、その日の職員の役割分担を確認している。 ・毎日、打ち合わせを行い、児に付く担当を決めたり、活動内容を確認し合っている。 	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	37	2	・その日の反省や振り返りを話し合い、翌日以降の支援につなげている。	・その日クラスに入った全員で打ち合わせができると良い。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	38	1		
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	39	0			

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	39	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	39	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	39	0	・併行通園をしている児の園に出向き、職員に話を聞いたり、支援内容の情報を共有している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	39	0		
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	39	0		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	39	0		
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	39	0		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	39	0	・同施設内の保育園と、様々な場面で交流する機会がある。	

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	39	0	・電子連絡帳や親子活動等の行事を通して日々の様子や成長を伝え合っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	39	0	・今年度は市の出前講座を活用し、今までになかった内容の学習会を行った。(「ヤクルトによる腸内細菌の話」や「図書館職員による読み聞かせについて」など) ・保護者学習会等を実施している	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	39	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	39	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	39	0	・前期と後期で保護者と支援計画の説明をし同意書もらっている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	39	0	・定期的ではないが、日常的に、会話の中から引き出したり、関わったりできている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	39	0	・クラス懇談時に、保護者同士で話をする機会を設けたことで、各家庭で悩んでいることや、改善策等を話し合い交流することができた。	・きょうだい同士が交流する機会は設けていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	39	0	・保護者との面談を、個人懇談以外でも希望があった時に対応し、行った。 ・保護者から相談や申し入れがあった場合は、一人で抱えず、クラス全体、園全体で協議を行いすみやかに対応できるよう配慮している。	
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	39	0			

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	39	0		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	39	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を 図っているか。	36	3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症が流行して以降難しくな った。 ・行事への招待はコロナ禍以降少し難しく なっているが掲示等で発信している。 ・コロナを機に、感染症が流行る季節はなか なかに難しいが、努力していると思う。 	
非常時 等の 対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感 染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するととも に、発生を想定した訓練を実施しているか。	38	1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議を活用し、マニュアルの確認見直 しを行った。 	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備 え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	39	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認し ているか。	39	0	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が中心となり確認している。 	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応 がされているか。	39	0	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士が中心となり確認している。 	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措 置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	39	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全 計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	38	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について 検討をしているか。	39	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、安全会議を実施し、事故やヒヤリ ハットの内容を検討、分析を行っている。 	

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	38	1		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	36	3	<ul style="list-style-type: none">・身体拘束は行っていない。・危険がある場合を除き、身体拘束はすべきではない。・身体拘束を行わない方法を取り入れている	